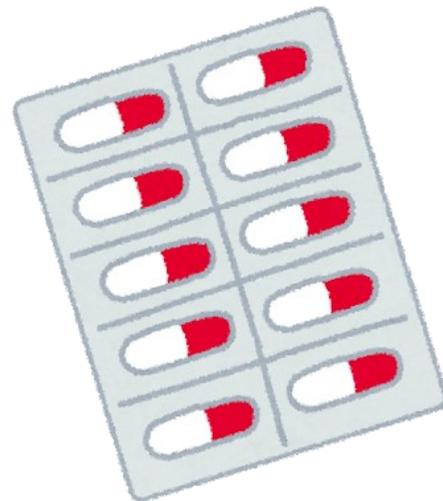


## 図書館サイエンス夜話とは？

サイエンスカフェとはもともと科学者や技術者と市民が科学の話をするカフェのこと。1998年にイギリスで始まったとされています。現在では、特に飲食をする場でなくとも、語り手と聞き手が打ち解けた雰囲気の中で科学について語る場をサイエンスカフェといっています。

「図書館サイエンス夜話」は鶴舞中央図書館があいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの協力を得て開催するサイエンスカフェです。あいちサイエンスフェスティバルの期間中、二夜にわたり開催いたします。皆様ふるってご参加ください。



名古屋市鶴舞中央図書館

名古屋市昭和区鶴舞1-1-155  
電話:052(741)9822

古紙パルプを含む再生紙を使用しています

## 第一夜

### 図書館サイエンス夜話 ブックリスト①



令和5年10月27日(金)  
「くすりをつくる」

名古屋大学大学院  
創薬科学研究科 教授

横島 聡 氏

あいちサイエンスフェスティバル@つるま

# 第一夜のブックリスト

## ★ 講演会関連書籍 ★

- 薬学教室へようこそ  
二井将光／編著 講談社
- 創薬科学入門  
久能祐子／監修 佐藤健太郎／著  
オーム社 2011

## ★部分的に執筆に関与したもの★ (天然物化学関連)

- 天然物の化学 魅力と展望  
上村大輔／編 東京化学同人 2016
- 天然物の化学2 自然からの贈り物  
上村大輔／編 東京化学同人 2018

## ★ 天然物化学関連書籍 ★

- 海洋天然物化学  
木越英夫／編著 日本化学会／編  
共立出版 2023
- 植物はなぜ薬を作るのか  
斉藤和季／著 文藝春秋 2017
- 世界毒草百科図鑑  
エリザベス・A.ダウンシー／著 原書房  
2018

## ★ おすすめの本 ★

こどもの頃は読書が苦手で、夏休みの読書感想文や「目指せ1000ページ」などの宿題が苦痛でした。その傾向が続き、大学生のときも読書量が少なかったことが悔やまれます。社会人になってしばらくして、ようやく読書を楽しむようになりました。図書館は、気になったものをとりあえず手に取り、読み始めることができますので(途中でやめるものもありますが)、読書の幅が広がる場になっています。(普段は地元の図書館に行っています)

### •ウイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む 野矢茂樹／著 哲学書房 2002

野矢先生の文章が好きで色々読みましたが、最初に手に取ったのは、たまたま、この一冊でした。本書に出会うきっかけは「ツチヤ教授の哲学講義」(土屋賢二／著 文庫版の解説を野矢先生が執筆されています)でした。

### •真理の探究 佐々木閑・大栗博司／著 幻冬舎 2016

仏教学者(佐々木閑)と理論物理学者(大栗博司)の共著。それぞれの先生の文章が好きなので、共著となっている本書を推薦させていただきます。佐々木先生は京都大学の工学部と文学部をそれぞれ卒業されていますが、工学部の時の研究室配属は有機化学の研究室だったとのこと。 (ご著書の中でも触れられることがあります)

### •中動態の世界 國分功一郎／著 医学書院 2017

文庫本が出て「暇と退屈の倫理学」(國分功一郎／著)がかなり読まれているようですね。中学校の英語で習う「能動態と受動態」に疑問も持たず生きてきましたが、歴史的にも古い「中動態」という見方を取り入れることで、世の中の捉え方が変わって来るのではないかと感じています。

### •ウイスキーの科学 古賀邦正／著 講談社 2009

### •コーヒーの科学 旦部幸博／著 講談社 2016

講談社のブルーボックスの中でも、特にお勧めの2冊をご紹介します。身近な飲み物を題材に、科学的な面白さがまとめられており、ウイスキーやコーヒーを飲むときの気分が変わります。サントリー創業者・鳥井信次郎の伝記的小説「琥珀の夢」(伊集院静／著)もお勧め。(サントリーのウイスキーが飲みたくなります)

### •ふしぎな国道 佐藤健太郎／著 講談社 2014

### •電柱鳥類学 三上修／岩波書店 2020

好きなことを好きと言える世界は幸せだと感じさせてくれる良書。佐藤健太郎先生は化学・医学を中心としたサイエンスライターですが、国道マニアとしても有名。三上先生は鳥類がご専門とのことですが、本書を読む限り、好きの度合いは「電柱>鳥」と思われます。

配架場所や予約の方法など、わからないことがありましたら職員におたずねください。